

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3017002400		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名	グループホームガーデンライフ		
所在地	海南市船尾265-8		
自己評価作成日	令和 7 年 1 月25 日	評価結果市町村受理日	令和2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jkyosyoCd=3091700090-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和 7 年 2 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『のんびり・ゆつくり〇(まあるく)ゆこう』をモットーに住み慣れた地域の中で心穏やかに笑顔の絶えない事業所を目指しています。屋上には庭園があり、ボランティアのガーデンサポーターさんにより、季節の野菜を栽培・収穫を入居者様と一緒にいき、献立を考えて食卓へ。自然の恵を頂いています。押し花教室では、ボランティアの先生にご指導いただき、毎年11月に開催される、地域の漆器祭りの文化祭へ作品を出展しています。今年は外食・入居者様の行って見たいところに外出を企画中です。医療面では母体が医療法人の事もあり、病院・老健施設が併設しており24時間、医療との連携が確保されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケア専門士である管理者の温かく、おらかな人柄が大きく影響しているホームであり、理念である『のんびり・ゆつくり〇(まあるく)ゆこう』を見事に体現している。職員数は総勢で11名で、同種の事業所よりも豊かな配置となっている。スタッフ間の関係性が良好で、業務負担を効率よく分担できている。スタッフミーティングは定期的に行われており、忌憚のない活発な議論が繰り広げられている。個別援助計画は「生活支援プラン」との名称で運用され、認知症の方に対する暖かな配慮に満ちている。計画は高頻度で見直しがなされており、担当介護支援専門員が力を注いでいることがよく分かる。食事の提供には特に工夫が凝らされており、入居者にも役目を担っていただきながら、季節感を味わえるような趣向が施されている。おやつにはプロから習った茶の湯が取り入れられ、入居者に大きな好評を得ている。隣接地に母体法人の病院や介護老人保健施設があり、災害対策など多くの面で有機的な連携がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに〇印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	〇	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	〇	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	〇	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	〇	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	〇	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	〇	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	〇	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	〇	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他に『のんびり・ゆっくり○(まあるく)ゆこう』を独自に掲げている。入居者様には住み慣れた地域の中で穏やかに安心して笑顔の絶えない日々を送って頂けるように努めている。	理念の『のんびり・ゆっくり○(まあるく)ゆこう』の他に、サービス提供方針として「ゆったりと自由で安らぎのある暮らし」「自分で出来る喜びと達成感のある暮らし」が掲げられており、各々ホーム運営の柱とされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ対策で、ボランティアの先生方の受け入れが出来なかったが昨年より再開している。入居者様も楽しみが増え喜ばれている。	茶の湯、押し花のプロの先生や、野菜や花を育てるガーデンサポーターがボランティアとして活躍してくれており、大変豊かな活動が繰り広げられている。入居者にも大変好評であり、ホームの活性化の大切な要素となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年の北野上地区で、『徘徊模擬訓練』に参加する予定。また、『認知症当事者・家族の交流会』や『認知症サポーター養成講座』など参加し、市とも連携し事業所の事を知って頂く機会を増やしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者や家族様に出席して頂いている入居者様にはお茶出しなどに時々参加して頂いている。年2回4月と10月には、もう一つのグループホームとサ高住と合同で行い、お互いの情報交換の場にもなっている。	運営推進会議は2か月に一度、きちんと執り行われている。母体法人の事務次長、理学療法士、地域の方(元入居者家族)、市職員の参加があり、入居者が「お茶出し係」として一役買っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年より、地域ケア会議での代表を務めさせて頂いている。市の高齢介護課や包括とは、入居待機人数の情報や困難事例等の相談など行っている。	市の地域ケア会議では地域密着型サービス部門の代表を務めており、認知症グループホームや小規模多機能型居宅介護などの意見を集約し、全体会議で発表する役目を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関と老健側の扉を開けている。入居者様・他部署のスタッフや老健に入居されている方が、自由に入出入り出来る様にしている。施錠が身体拘束であることをスタッフは認識している。	鍵の開放には非常に積極的に取り組んでいる。玄関は夜間帯の勤務時間にかかる17:00まで、隣接の老健施設との連絡通路は夜間帯の20:00までは必ず開放しており、入居者への心理的配慮と安全性の好バランスが実現している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に『スピーチロック』に力を入れ伝達研修や動画研修を行っている。言葉遣いや言い換え言葉で困った時はスタッフ同士で話し合ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員に研修に参加出来る機会がある。リモート研修に参加。参加したスタッフが講師になり伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当時と変わらず文章と口頭で説明させて頂いている。介護報酬改定時や加算習得時などにも文章と口頭で説明、確認して頂いてから新たに契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当を設けている。家族様の来所時には入居者様の近況報告をしたり、コミュニケーションを積極的に行って行けるよう、また意見や要望を出して頂ける雰囲気作りや環境作りに努めている。	管理者自らが相談窓口・担当としてその役目を担っている。日常的に面会に来る家族はもちろん、遠方から来所する家族には特に留意して意見を聴くよう努めている。入居にもたびたび意見を聴くようにしており、結果として基本的なニーズが満たされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、スタッフミーティングを行っている。朝の申し送り時に情報共有や意見交換、入居者様の気になる事を話し合う事もある。不参加のスタッフには伝達ノートを見てもらい見たらサインするようにしている。	月に1回のスタッフミーティングは大変充実しており、BCP、虐待、ヒヤリハット、事故などの重要な議題について活発に議論されている。また記録者は順番に交代しており、業務負担が偏らないよう工夫が凝らされている。	ヒヤリハットなどの記録様式に記入者の氏名を記載する欄が見られない、該当入居者が誰なのかが分かりにくい面がある。記録様式の工夫を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得での賃金UPや人事考課での時給値上げがある。また、準常勤や正職員への昇格などの制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は徐々に再開、積極的に参加するようにしている。法人外では、その場の状況でリモートで参加したり、出向いて研修や講義など参加も多くなってきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内にあるグループホームとはよく交流を図っている。他の事業所とは地域ケア会議などに参加、情報交換や悩みや分からないことがあれば連絡し交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅やサービス事業所や入院先へ出向き直接お会いして、本人様の思いや考えなど話を聞いている。、事前にホームに足を運んで頂いて、不安にならないように雰囲気やスタッフの顔を覚えて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前には事業所の見学をして話などお聞きしている。入居後は家族様には近況報告や要望などをお聞きしながらケアに活かせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様・担当のケアマネジャーなどから話を聞き内容を見極め、必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何も言わなくてもそっと寄り添ってくれる、声を掛けてくれた、手を握ってくれる、この人の声や顔を見るとホットする安心感。自然と笑顔が出てくる そういう関係性を今後も続けていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お支払いに月に1度は来所して頂く機会を設けている。必要に応じて電話での報告や相談を受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類になり緩和してきているので、短い時間だが、家族様や孫様・ご兄弟など居室で面会して頂いている。	隣接の病院や老健施設に配慮しながら、入居者の自室での家族等との面会を再開している。感染対策は大変難しい問題であるが、入居者や家族の意向の尊重がなされている貴重な例である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で話し合ったり、仲良くされているが、耳の遠い人が多いので、話が噛み合わない時もある。そんなにはスタッフがさりげなくサポートに入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に転居された方など、様子を見にその施設に出向いたり、電話などでの様子伺いなど行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後も日々の暮らしの中で思いを聴く様に努めている。中々、本人様から思いが聞けない時などは、スタッフがその人の思いを考えたり、家族様にアドバイスや意向をお聞きして本人様本位なのかを見極める様に努めている。	管理者自らが、日常のごくわずかなことでも、「入居者の意向に沿った介護が提供できているのか」などと常に考察している。この姿勢が他のスタッフにも大きく影響し、高質な介護が保持される極めて大きな要因となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後のアセスメントにより、本人様・家族様・担当ケアマネなどに状態を得ている。入居後も本人様や家族様にお聞きして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、その日の顔色や表情・仕草や話す内容から体調の変化に気付く事もある。入居者様の持っている力が発揮できるよう支援、また、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行いつている。家族様やケアマネ・担当スタッフとは6ヶ月をめぐりに再開していく予定。	個別援助計画は「生活支援プラン」の名称で運用されている。「私の思い 願い」や「私らしい時間を過ごす」などの項目が見られ、認知症の方に対する暖かな配慮に満ちている。計画は高頻度で見直しがなされており、担当介護支援専門員が力を注いでいることがよく分かる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々の生活記録に記入している。3ヶ月に一度のモニタリングや、スタッフからの発信によりカンファレンスを行う時もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時に家族様の協力を得ながら併設している病院の付き添いや、他の病院(整形外科・歯科・眼科・婦人科)などその時々状況で付き添いを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	押し花教室や園芸教室の先生方には昨年から来て頂いている。地域の体験学習は再開予定であるが、日は未定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の殆どの方の主治医が併設されている病院の医師である。月に1度訪問診察を1週間に1度、透析室の看護師による訪問看護がある。	隣接の母体法人の医師が主治医となっているが、他の医師にかかることを妨げることはしていない。歯科、眼科、整形外科、婦人科などは外部への受診や往診を利用しており、入居者の健康への配慮が十分になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院を始め、連携室や老健・透析室の看護師との協力体制が整っている。また、週に1度、透析室の看護師による訪問看護があり、相談やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設している病院と地域連携室との連携は出来ている。情報交換など共有が出来ている為、入退院時の支援がスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取りの指針』について口頭で説明は行っているが、書面での同意書の作成は行っていない。見直し・同意書の作成を行っている途中である。	『看取りの指針』はすでに作成されており、今後運用される予定である。近年、入居者の重度化が進行しホーム内での看取りも数多くあったが、最近では入居者が軽度化している。しかしホームの看取りへの意向は衰えておらず、入居者に最期まで寄り添う姿勢が良好に保持されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の変化や病気のサインなど気付けるように、老健の看護師や透析室の看護師に今後レクチャーや講習会を開催して行くように働き掛けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健主催の防災訓練への参加や法人全体の防災訓練に参加予定である。また、参加者からの伝達研修で情報の共有をしている。	隣接の老健施設の訓練に参加し、階段を使った垂直避難などを実際に行っている。非常時の備えとしての備蓄は充実しており、ホーム内と母体病院各々で2～3日分は十分に確保されている。	隣接施設の訓練の参加は十分に行われているが、ホーム独自の訓練の必要性を管理者が感じている。今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時、その人に合わせた声のトーンやゆっくりと分かりやすい言葉掛けや言い換えを心掛けている。難聴の方も多いので、ジェスチャーで交える時もある。	便器の蓋にかわいいシールを貼って、トイレを居心地の良い空間にするための工夫が凝らされている。職員の業務多忙の中、トイレのカーテンを閉め忘れることがあり、会議で話し合うなど、改善が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で決定できる方も居れば悩まれる方もいる。出来るだけ本人様で決定して頂きたいので二者択一で支援している。また、その方の立場に立ちスタッフ同士で話し合ったり家族様の協力を得ながら決める時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れや決め事があるが、予定は未定なので、その日1日を楽しく過ごして頂くためにその日の状態に合わせた臨機応変な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選べる方には、選んだ服を着て頂いている。服装が合わない時には、さりげなく声掛けと一緒に選び着て頂いている。今後も、おしゃれを楽しんでもらいたいので、ボランティアの方に来ていただき、マネキュアや化粧などを行う企画を計画中である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日の時には、本人様にお聞きして本人様が食べたいまた、好物を食卓へ。喜んでいただいている。普段からもさりげなく何が食べたいかお聞きして提供。病院の栄養士との会議では、入居者様の栄養状態や、食事での相談アドバイスを頂く事もある。	誕生会では当該誕生月の入居者の希望に合わせてメニューが組まれることになっており、入居者とスタッフの全員が同じものを食べることにしている。調査当日は巻きずしが用意され、入居者が巻きずすを使って上手に巻き上げていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分はチェック表で管理。食事やおやつ以外でも飲みたい時に飲んで頂いている。入浴後や10時頃に提供。水分補給に努めている。食欲不振時には、『食事』にとらわれず本人様の食べたい物を食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来る方には声掛けや見守りを行い、介助の方はスタッフがやっている。週2回洗浄剤で義歯を洗浄、噛み合わせが合わない時や虫歯の治療の時には訪問歯科医に連絡し治療、通院など行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、自己にて行かれる方には、さりげなく様子伺いし困っている時には介助させて頂いている。夜間トイレを使用されている方も、日中はトイレを使用、誘導・見守り・介助をさせて頂いている。	入居者の軽度化に伴い、オムツの使用者はいなくなった。入居者の排尿パターンはしっかりと把握され、汚さないような工夫が凝らされている。排便は把握が辛いですが、入居者にさりげなく確認するなどして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便して頂きたいので、冷たい牛乳やヨーグルト、水分をたくさん取って頂くように努めている。食物繊維の多い食べ物を食事に取り入れる工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて入浴して頂いている。また、少しでも楽しんで頂けるように、季節での菖蒲湯や、ゆず風呂・温泉の素で温泉に行った気分楽しんで頂いている。	季節ごとに菖蒲湯やゆず風呂、温泉の素で楽しんで頂いている(日々の入浴ごとに毎回何らかの工夫が凝らされている)。入居者一人当たり週に二回としているが、希望があればそれ以上の頻度にも対応できる準備がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の目安はありますが、起きたい時に起きて、寝たい時に寝て頂いている。その日の入居者様の体調を見て休む事を勧める時もある。照明の明るさや布団の調整などにも気を配り、寒い時には床暖房や湯たんぽなど活用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書は誰でも見れる場所にあり確認出来るようにしている。服薬時はダブルチェックで確認本人様の前で、日付・いつ・個数を読み上げ服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知機能や身体能力が低下していく中、その人が得意だった事や好きだった事が1つでも出来る様にスタッフがサポートし楽しんで頂くように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で、外出が出来ていなかったが、緩和してきているので、徐々に戸外の方へ出ていくように企画。個別ではスタッフと一緒に近くの店に、出掛け購入して頂いている。	昨年11月には市の漆器祭りに出かけ、出展した作品の鑑賞を楽しんでいる。この冬は寒さが厳しく、外出は控えている。今後は県内にある温泉旅館への一泊または日帰り旅行が計画されており、入居者・スタッフ共に楽しみが広がっている。	入居者の中に「外出したい」、「買い物に行きたい」などの声がある。人員の配置等難しい課題があるが、入居者の意向に沿うよう、外出の機会の創出を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今、入居されている入居者様は、お金に執着した人は居てませんが、お金を持っているだけで安心される方もおられます。『紛失』する事もあるので、家族様には説明し承諾を頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、家族様やボランティアの先生方宛てに送らせて頂いている。電話は希望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらいたいので雛祭りや五月の節句、七夕やクリスマスなどの飾り付けを行っている。各居室の表札の所には、月々の飾り付けや個人の写真など五感を刺激するように努めている。	季節感の演出のため、ひな人形やひな飾り、節分の飾りなどが数多くみられる。他にも非常に多くのなごみを誘う掲示物があり、スタッフの努力がうかがえる。また玄関やリビングに入居者とスタッフの写真付き紹介張り紙があり、良い雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを、廊下には長椅子を置き好きな所で休んでもらっている。ちょっと1人になりたい時や洗濯物を畳んだりするのに座ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家で使用していた物を依頼するがあまり無いよう予め事業所にあるタンスや棚など使用して頂いている。タンスの位置やベッドの高さなど本人様の動きやすい様に配置や調整を行っている。	家族(特に孫)の写真や嫁入りタンス、仏壇など、入居者が大切にしているものを居室に自由に持ち込めるようになっている。携帯電話(スマートフォン)を使用する入居者もあり、適切に使うことのできるようスタッフが配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札、トイレには張り紙をして分かってもらえる様に努めている。		